

平成29年度研究テーマ **確かな学力を支える読解力の育成**

大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

注目!

11月20日(月)

徳淵

10月31日(月) 3年1組 国語 単元名「サーカスのライオン」

研究授業ではありませんでしたが、これまでの校内研の取組を参考にして取り組んだ実践を一つ紹介させていただきます。

1. 本時までの流れ

3年1組でサーカスのライオンの授業を行いました。本時まででは全部で5時間です。

- 第一時：全文を通読し、初発の感想をまとめる。本単元の流れをつかむ。
 第二時：一の場面を読み、じんざがどんな気持ちでサーカスの中で過ごしていたかを考える。
 第三時：二の場面を読み、じんざが男の子に出会い、どんな気持ちになったのかを考える。
 第四時：三の場面を読み、じんざにとって男の子がどんな存在になっていったのかを考える。
 第五時：四の場面を読み、じんざの「ウォー」に込められた思いを考える。(死を覚悟していたか)

また、物語の場面の概要は次のようになっています。(子どもたちがまとめたものなので、的確ではないかもしれませんが…)

- ①サーカスでのじんざ
- ②じんざと男の子の出会い
- ③じんざと男の仲が深まっていく
- ④じんざが命をかけて男の子をすくう
- ⑤じんざのいないサーカス

2. 本時の構成

本時を構成する際に、9月に清永先生が提案された実践を基に考えました。「場面読みをした上で、最後に全文を捉える時間を設定する」というものです。

そこで本時のめあて(課題)は「じんざの気持ちがいちばん大きくかわっている場面はどこか」と設定しました。物語の中で一番盛り上がるのは、四の場面です。男の子を助けるために、じんざが炎の中に飛び込み、自らの命と引き替えに男の子を救う場面です。

しかし、「じんざが変わった場面」とすると、四の場面よりも、二や三の場面がポイントになると私は考えています。

映画を見た後に、「最後の方の場面はドキドキしたよね。でも、やっぱりポイントだったのは、途中のところだったね。」と、話している姿。これが、私がイメージした子どもたちの将来の姿です。将来、こんな物語の捉えもできるようになると楽しいだろうなあ、と思います。学級の半分程度がこんな姿になり、その視点で意見を述べてくれる姿を求めました。

3. 授業の実際

導入

めあて（課題）を提示した後の子どもたちの意見の人数はざっと次のような感じでした。

一の場面：1名 二の場面：7名くらい 三の場面：7名くらい 四の場面：15名くらい

展開

意見は最初に四の場面を支持した子どもたちから中心に出させました。やはり「命がけで助けたから」という意見が出ました。

次に別の場面を支持した意見です。二の場面を支持した子どもは「一の場面の暗い様子から二の場面は明るい様子になった。」「『ぐぐっとむねのあたりが熱くなった』というところがじんざが大きく変わった。」。三の場面を支持した子どもからは、「『ねむらないほど男の子に会いたい』ところから、それだけうれしいことが分かる」「男の子が家族みたいで、じんざが大切だと思うようになったから」などが出ました。一の場面を支持した子どもからは、「『夢で家族に会う』ところが、じんざがさびしいからうれしい気持ちになったから。」と出ました。

その後、反対の意見なども出ながら進んでいきました。途中、「〇〇さんの話から考えが変わりました。」と、最初の意見を変えて発言する子どもも出てきました。

まとめ

迷っている子どももいましたが、最後にどの場面が決めさせました。

一の場面：0名 二の場面：10名くらい 三の場面：13名くらい 四の場面：8名くらい

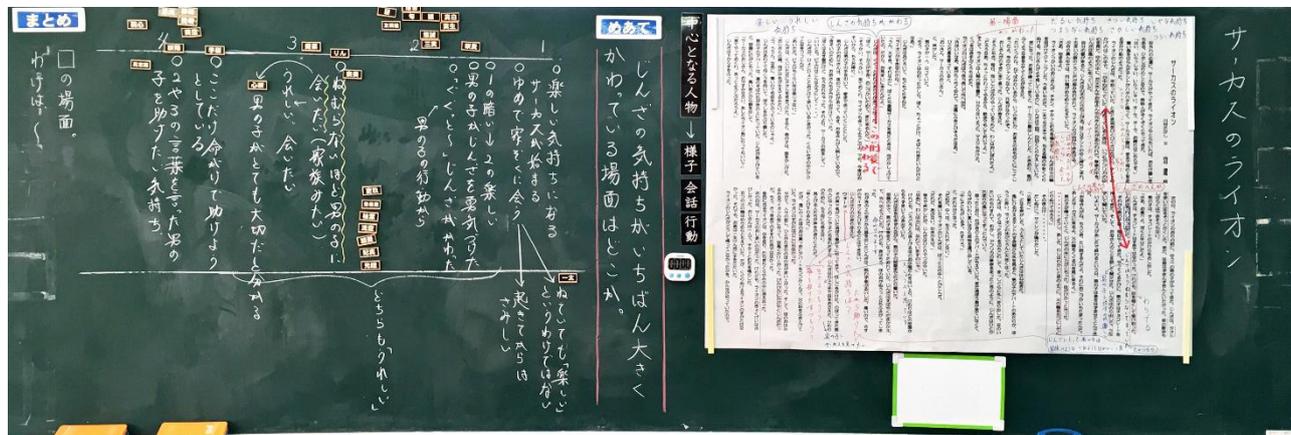
3. 成果と課題

成果

- 立場を明確にさせたことで、自分の意見をしっかり持つことができた。また、自分の考えの変容も捉えやすかった。
- 「〇〇さんの意見で迷った。」「〇〇さんの意見で、考えが変わった。」など、子どもどうしの発言で考えが揺さぶられたり、変容したりする学習経験を積ませることができた。

課題

- 全文を通して見ていたものの、根拠を複数提示する発言がなかった。前時までの、「自分の考えを示す根拠は、複数がいい」という、視点のおさえがもう一歩だった。



…といった拙い実践です。先生方の実践も知りたいなあ(´_`)